

ぬまた未来共創会議記録



ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか
日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403

ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403



会議の概要

ぬまた未来共創会議

「ぬまた未来共創会議」は、持続可能な価値ある沼田市を市民の皆さんと「共創」（きょうそう）する沼田市の新しいチャレンジです。



【ぬまた未来共創会議Vol.2】

沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

お互いの文化と相手を尊重し合い、生活していくことのできる社会を目指して

開催日時 令和4年11月15日（火）午後7時～ 場所 テラス沼田4階・防災会議室

参加申込 市ホームページからの申し込み、または沼田市企画政策課の窓口で配布している申込用紙で申し込み。（オンライン参加可）

対象者 市内に居住する人、市内に勤務する人、または市内に通学する人

【お問い合わせ】 沼田市総務部企画政策課
Tel:0278-23-2111 Fax:0278-24-5179 Mail:kikaku@city.numata.lg.jp



お申し込みはこちら
（沼田市HP）

ぬまた未来共創会議Vol.2

テーマ 沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

概要 沼田市民と沼田市に居住する外国人が交流を図り、多様な文化的背景や異なる価値観を理解し、お互いに楽しく暮らしながら、沼田市を発展させるためにはどうしたらよいでしょうか。グループワークを通じて、そのヒントを探します。

日時 令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分

場所 テラス沼田4階／防災会議室402・403

次第	内容
開会	会議の開始を宣言します。
挨拶	沼田市長 星野 稔
資料説明	本日の流れを説明するほか、関連するデータの紹介、テーマの提案者からテーマ選定の想いをお話いただきます。
グループワーク アイスブレイク	「嘘あてゲーム」という特別な自己紹介を行います。
グループワーク 意見交換	ブレインストーミング形式（グループのメンバーで同じテーマについてアイデアをたくさん出し合うこと）でグループワークを行います。
各班発表	各班で出た意見の共有を行います。（質疑応答もあります）
市長所感	沼田市長 星野 稔
閉会	会議の終了を宣言します。

出席者 計20名（グループワーク参加者のほか運営、オブザーバー等含む）



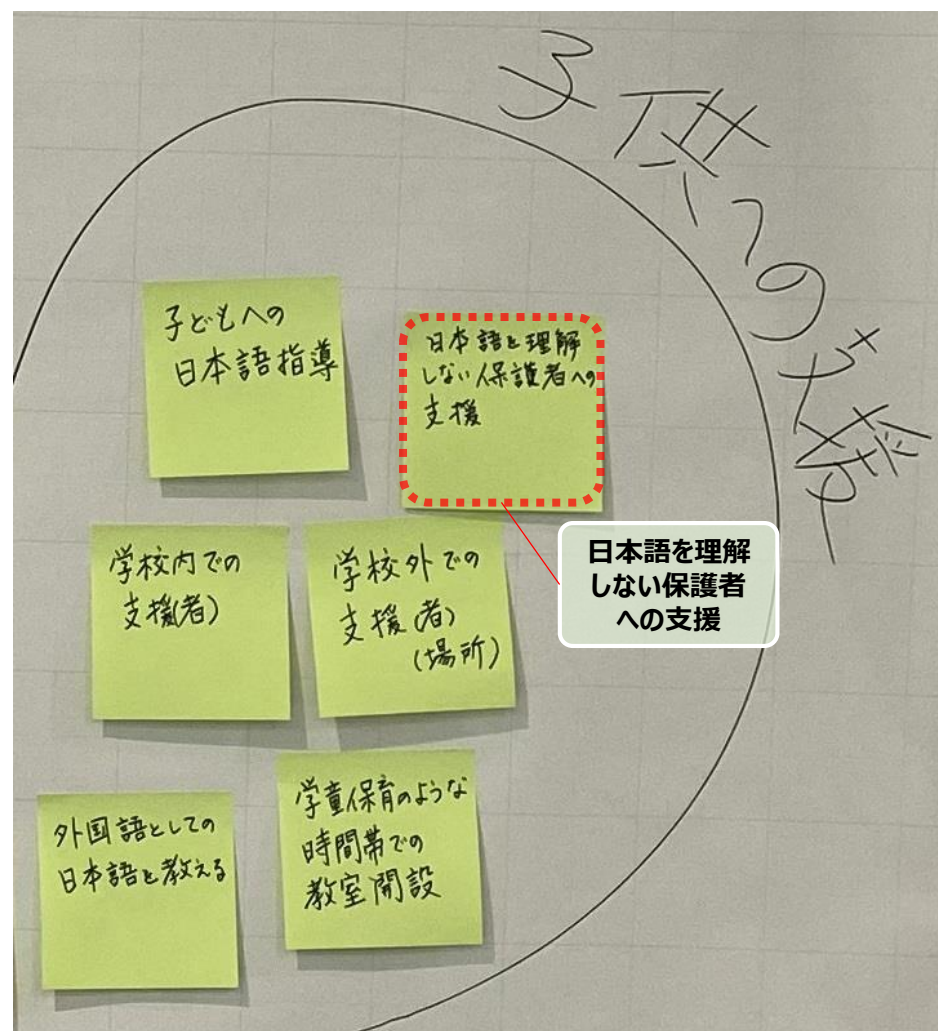
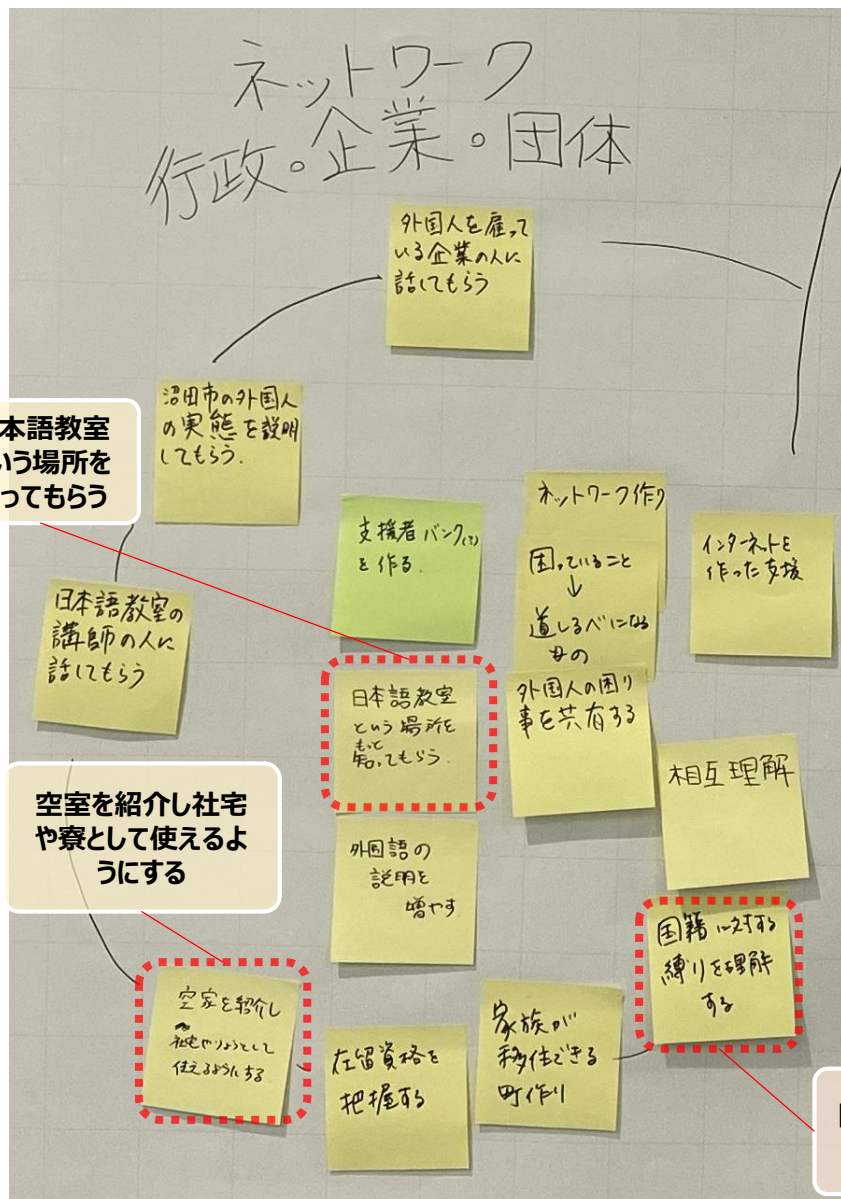
グループ1ホワイトボード全景





グループ1ホワイトボード詳細

※ 解像度の都合により、画像から視認しづらい箇所については、補記しています。





グループ1のキーワード一覧

ネットワーク 企業・行政・団体

- ネットワーク作り
- 支援者バンク
- 相互理解
- 困りごとへの道しるべ
- 家族が移住できる街づくり
- 日本語教室
- 外国人を雇っている企業
- インターネット
- 空室
- 在留資格
- 外国語の説明
- 国籍に対する縛り

子供への支援

- 日本語指導
- 保護者への支援
- 学校内
- 学校外
- 支援者
- 支援場所
- 学童保育
- 教室開設
- 日本語教育



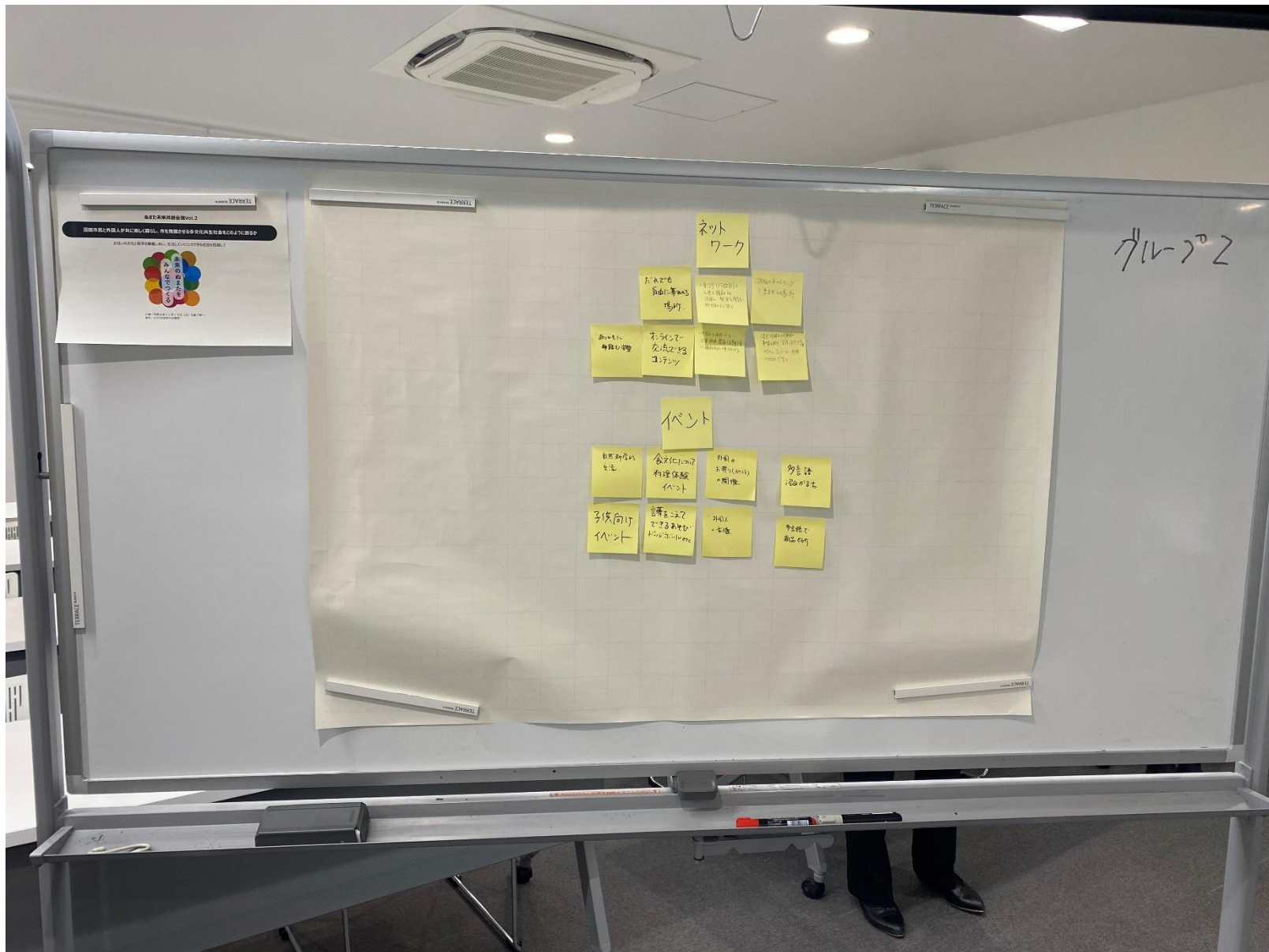
グループ1の発表要旨



- 行政・企業・団体がうまく手を組んで、ネットワークを構築していくのはどうか。必ず起こるのが、外国人の子どもに関する問題である。日本に住んでいただく外国人には家族、子どもがいる。単身で来日した方もいずれ永住権を取れば家族を呼ぶだろう。子どもへの支援は欠かせない。
 - 日本に来たばかりの外国人は、日本語がほとんどできないことが多々ある。
 - 過去の話では、両親がほぼ日本語が理解できないにもかかわらず、子どもを普通の小学校に通わせなければならない状況があった。そういった時、子どもへの支援が必要である。例えば、学習内容も日本人が習う国語ではなくて、生活に必要な日本語を教えたり、人を増やすなど対応したら良いのではないか。学童なども活かせるかもしれない。
-
- 日本人が外国に行って困ることがあるように、外国人も日本に来て困ることがたくさんある。しかし、支援団体など道しるべになるものがまだはっきりとしていない。インターネットを使い、zoomなど離れていても会話ができるシステムを使用することや、市役所が窓口になっている支援者バンクのような所をより多くの人に知ってもらい活用できるようにしていくことが大事なのではないか。また、日本語教室をより多くの人に知ってもらって、日本語を習い、加えて直接会って会話することで、文化の違いなども感じて理解が始まっていくと思う。
 - グループ1の意見の核としては、困りごとの相談窓口が必要であるということ。また、外国人の子どもへの支援も必要なので、ネットワークや支援バンクが一番大事ではないか。



グループ2ホワイトボード全景



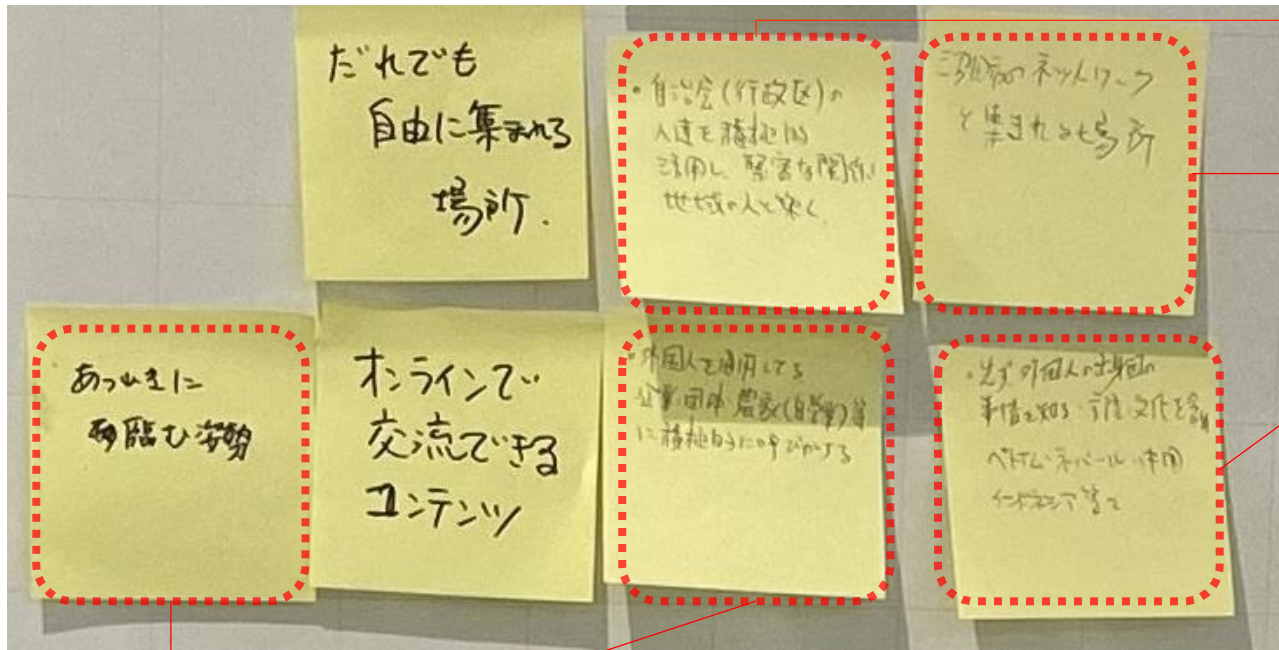
ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403



グループ2ホワイトボード詳細

※ 解像度の都合により、画像から視認しづらい箇所については、補記しています。



自治会（行政区）の人たちを積極的に活用し、緊密な関係を地域の人と築く

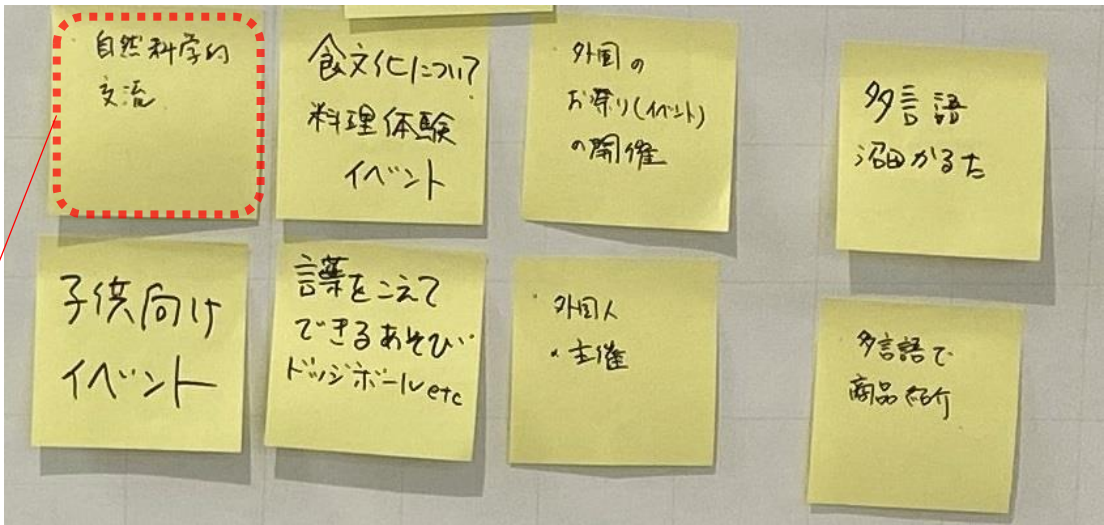
沼田市のネットワークと集まれる場所

まず、外国人の出身国の事情を知る（言語・文化）

あつれきに臨む姿勢

外国人を雇用している企業・団体・農家（自営業）等に積極的に呼びかけをする

自然科学的交流





グループ2のキーワード一覧

ネットワーク

- 誰でも自由に集まれる場所
- ネットワーク作り
- 自治会
- 地域
- あつれきに臨む姿勢
- オンライン交流
- 呼びかけ
- 出身国
- 文化
- 企業
- 団体

イベント

- 自然科学的交流
- 食文化
- 料理体験
- 外国のお祭り
- 多言語化
- 沼田かるた
- 子ども向け
- あそび
- 外国人主催
- 商品紹介



グループ2の発表要旨

- 基本的なことだが、外国の文化や事情を知り、相手の立場に立って考えることが、多文化共生の第一歩だと考える。
- 誰でも自由に集まってコミュニケーションが取れる場所やオンラインのコンテンツがあれば、外国人の方も気軽に交流できるのではないか。
- 区長さんですら同じ地区に外国人をいることを知らないことがあると聞いた。外国人と同じ地域に住んでいる人たちも、外国人が住んでいることを認識して、協力・受入態勢をつくる必要があるのではないか。例えば、騒音やゴミ、食事の匂いといった文化の違いからトラブルになるケースがある。相互理解を深め、お互い歩み寄れば緩和されるのでは。個人情報保護の兼ね合いや、どこまで踏み込めるかという問題もあるが、お互いの立場を尊重出来るようになっていくことが大切だと思う。
- 外国人を雇っている企業に、より積極的に多文化共生に関して参加していただければ、働いている外国人もより交流できるのでは。
- 料理体験イベントはより良く交流ができるのではないか。日本の料理を外国人と一緒に作るだけでなく、外国の料理を日本人に教えてもらうことで、お互いの文化を良く知ることができると思う。
- 商品説明や、「沼田かるた」を多言語化すれば、外国人にも馴染みやすい。
- 子ども向けイベントを開催すれば、親子で交流できると思う。
- 言葉がいない遊びで気軽に交流できると思う。例えば、ドッジボールやたこあげ、けん玉など。ルールが簡単で単純な遊びだからこそ、誰でも気軽に参加できる。
- お互いのことを知り、文化等を理解し、相手のことを考えて尊重することが、多文化で共生することだと感じた。



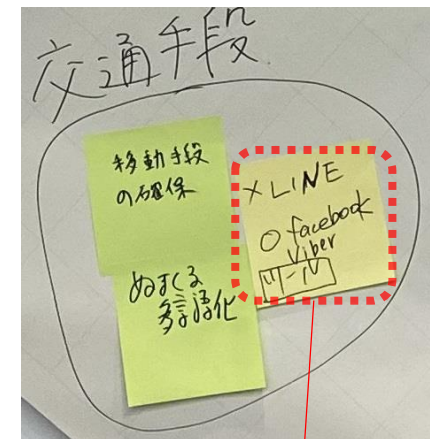
ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403



グループ3ホワイトボード詳細

※ 解像度の都合により、画像から視認しづらい箇所については、補記しています。



ツール
LINE
だけでなく
facebook
Viber



グループ3のキーワード一覧

イベント・文化

- カラオケ大会
- 文化を共有
- お祭り
- 運動会
- 着付け教室
- ゲームイベント
- 茶道教室
- 書道教室
- 花道教室
- 観光ドライブ
- 古い建築物の見学

食

- 料理教室
- レストラン
- ビール
- 日本
- 各国

Welcome

- 声かけ
- 個人として接する
- 紹介
- リモート飲み会

空間

- 居心地の良い空間
- とまり木
- 場の整備
- 集う場所
- お茶
- 喫茶店
- ボードゲーム

交通手段

- 移動手段
- ぬまくる多言語化
- Facebook
- Viber



グループ3の発表要旨

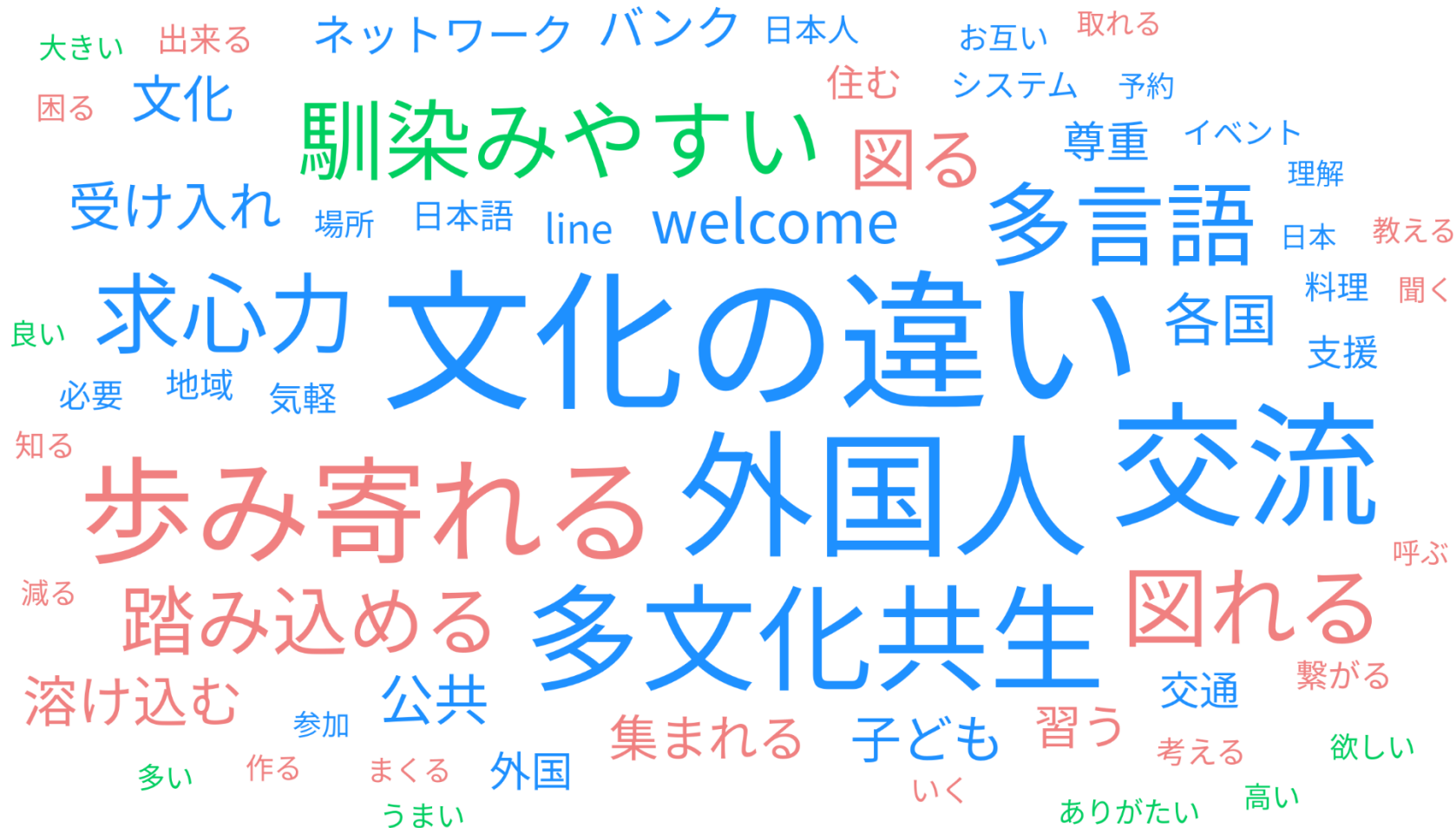


- イベントや文化で交流する：先日、産業展示即売会で行われたカラオケ大会は、とても盛り上がったと聞いた。市内観光や運動会、文化交流など、イベントの中で交流を図ることが大切。交流のテーマとして、「食」は特に求心力が高い。各国の料理教室や日本食を楽しんでもらったり、各国の方が運営されるレストラン（インドカレー屋やタイ料理屋など）が継続的にあったりすれば、交流が図れるのではないかと感じる。現に、国際交流協会主催の「国際交流フェスティバル」では400名もの来場者があった。（コロナ前）実績もあり、食に対する求心力は大きいと感じている。
 - 交流する空間：気軽に集まれる「空間」が足りてないと感じる。街中に喫茶店が減っていて、気軽にお茶する場所がないと感じる。集う場所がないのは、国籍に関わらず、交流が減ってしまう要因ではないか。
-
- welcome感：全てに共通することだが、「welcome感」があることが重要と考える。地域全体として、「受け入れよう」、「交流しよう」という感覚、気持ちを前面に出していくことが大切。例えば、歩いている人に声をかける、あいさつを試みる。名前を覚えて呼ぶようにしてみたりと、日頃からのコミュニケーションを図ることがイベントへの参加や地域への溶け込みに繋がっていくと思う。その中で、「交流」が生まれ、「住みやすさ」に繋がっていくだろう。
 - 公共交通：「公共交通」の整備も、天候の影響もあり、課題であると考えている。自転車で移動する外国人をよく見かけるが、冬や雨天時は大変だと思う。ぜひ、便利なデマンドバス「ぬまくる」を活用してみたい。事前に、日時、場所を予約をすることで、バスが来て、とても便利なシステムだ。デマンドバスの導入にあたり、バス停の数を500箇所と大幅に増やしたので、利便性も向上している。今後、予約のしやすさの追求やぬまくるAPPの多言語化を進めていけば、利用率の向上に繋がるかもしれない。なお、外国籍の方の主要ツールはLINEではないことも多いため、LINE予約よりも多言語化の方が外国人にとってはありがたいと思われる。



発表要旨のワードクラウド

全班の発表からスコア（単語の「重要度」）が高い単語をAIが複数選び出し、その値に応じた大きさを図示しています。単語の色は、品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



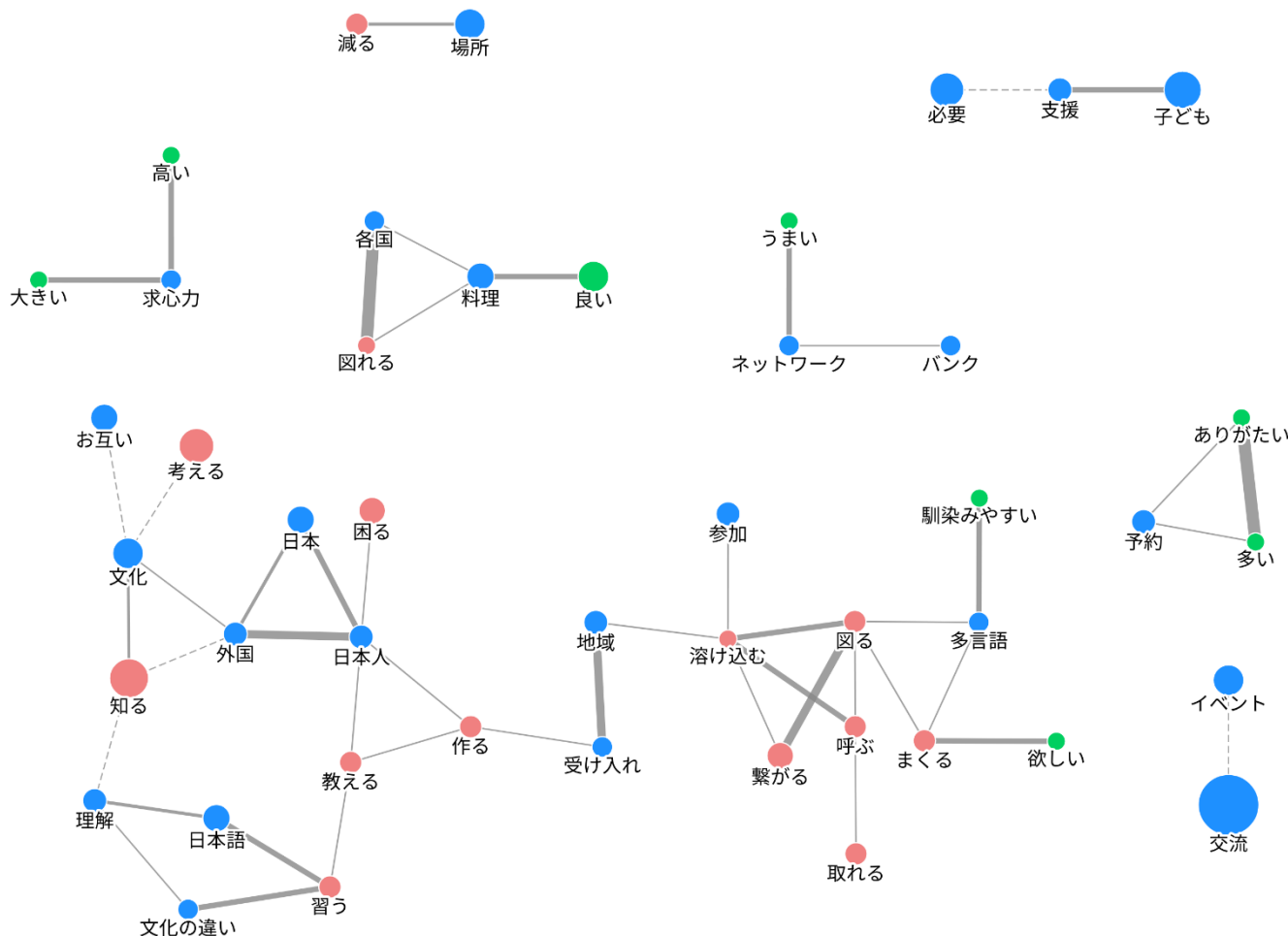
ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403



発表要旨の共起キーワード

共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。共起キーワードは、全発表の発表に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図で、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されます。



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

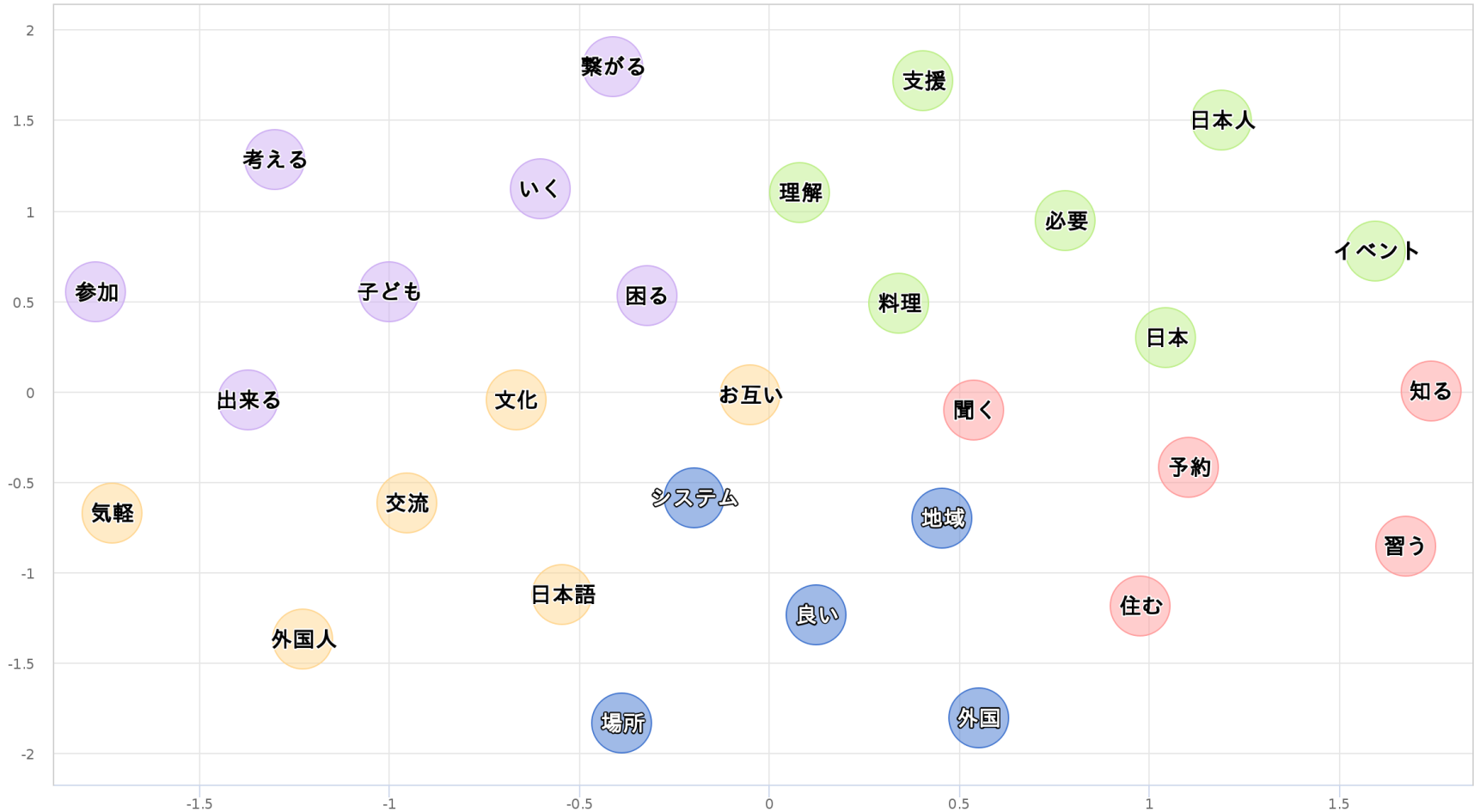
ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403



発表要旨の2次元マップ

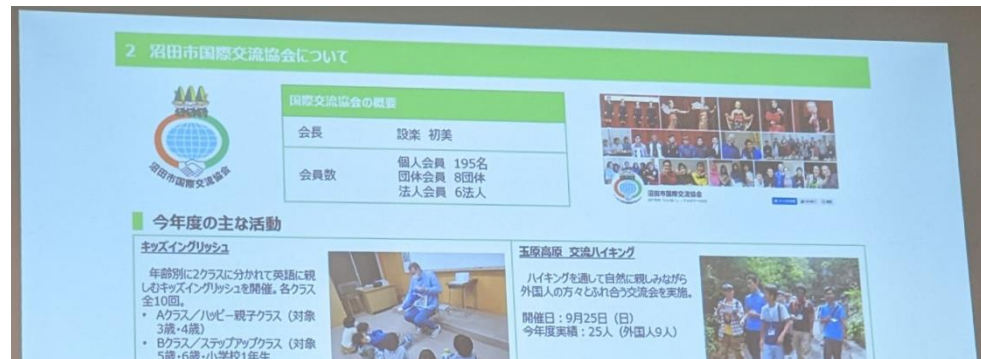
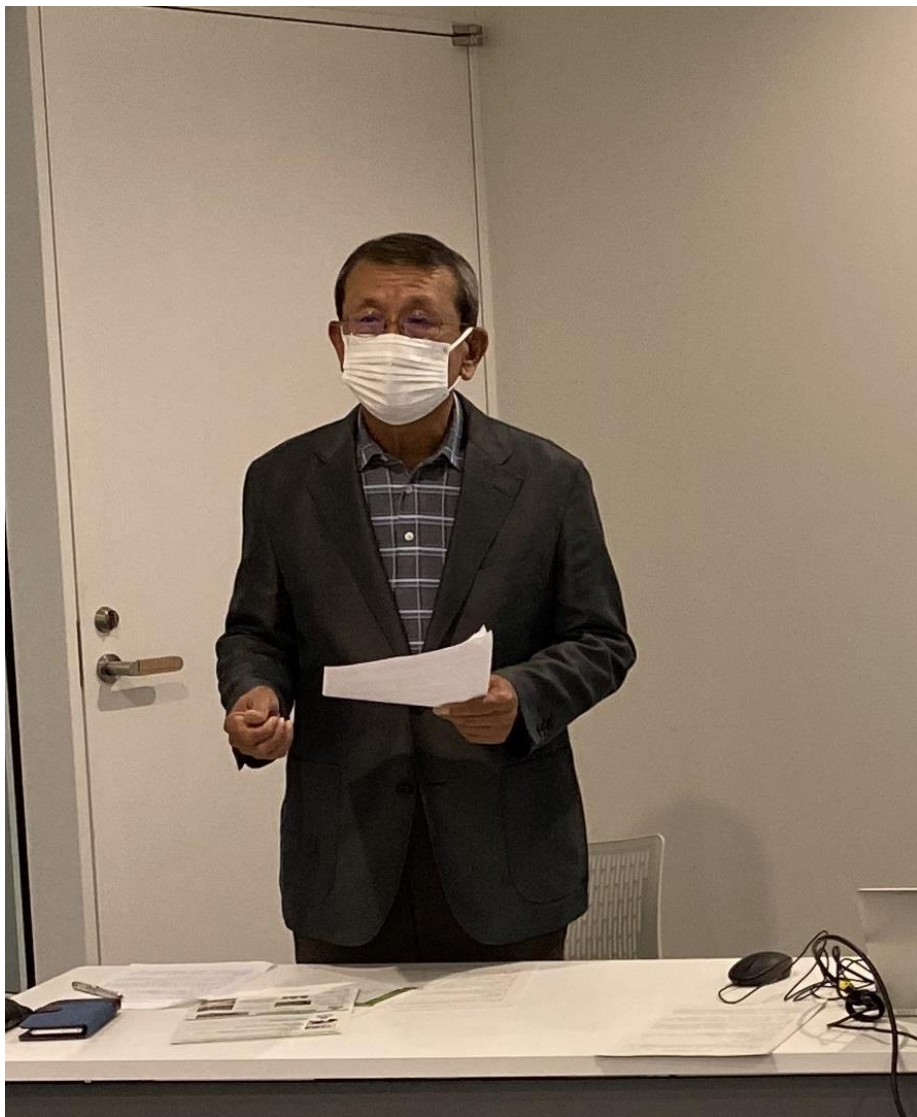
2次元マップは、全員の発表の単語の出現傾向を全体的に俯瞰するためのもので、「近くにある単語同士は同じ場所に出てくる傾向が強い」ということを意味しています。（単語の出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置）



ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403

記録写真：グループワーク・発表の様子①



ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403

記録写真：グループワーク・発表の様子②



ぬまた未来共創会議Vol.2沼田市民と外国人が共に楽しく暮らし、市を発展させる多文化共生社会をどのように創るか

日時：令和4年11月15日（火）午後7時～8時50分 場所：防災会議室402・403

記録写真：沼田市長挨拶・所感





会議記録：市長所感

- 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。大変参考になりました。
- 提案者の佐山さんの提案書に、課題が集約されていると思いました。
- みなさんの意見を聞いた上で、沼田にあつらいいなと思うのは、「わくわく感」「楽しい」のある場所。社会情勢の影響など、昔と比べ活力がなくなっているのは、仕方のない部分もあると思いますが、「わくわく感」がまちにないと感じています。
- ある程度の広さのある場所で、日本人も外国籍の方も集える場所が、一市民として欲しいと思います。例えば、毎日、国籍ごとに1人ずつ常駐できる形を取れば、コストはかかっていますが、雇用の確保にも繋がり、稼げる仕組み作りにもなる。さまざまな国籍の人がいれば、同じ国籍の方も集まってもらえる。もちろん日本人も集まれるので、共生している場ができあがっていくように思います。
- 現在、企業誘致を進めていますが、「沼田で求人を出しても人が集まらない」と、よく社長さんに言われてしまいます。東京本社で全国から求人して、沼田勤務をお願いすることをおっしゃっていた社長さんもおり、行政もこうした流れを起こさなければならないと思っています。人口が減っていく中で、雇用を確保していくためにも、今後、外国人材が大きな雇用の担い手になっていくことが予想されます。
- 今回意見のあった、区長さんが住んでいる外国籍の方を把握するような形の仕組みづくりも必要と感じました。沼田に居住されている外国人の方は、冷静で真面目な方が多く、今のところ、大きな事件はありませんが、トラブルを防ぐためにも、どこに誰が住んでいるか知り、交流することが大事だと思いました。
- そして、常に交流できて、同じ国籍の仲間がいて、日本人とも交流できるまちにしたいかなと、今後の発展は、難しいのかもしれないと率直に感じました。
- 今回申し上げたのは、夢であり、ひとつの目標です。
- 今回が2回目の未来共創会議です。企画政策課がこの提案を採択したということは、課題を感じているということだと思います。
- この会議は、会議をやっただけで何も続かないということにはしたくないという思いで開催しました。日本人だけで集まっていればよいという時代ではもうないというのが率直な感想です。今回のご意見は、大いに参考にさせていただき、少しでも前進していきたいと思っています。特に、今後5年間で、さまざまな面で勝負だと思っています。
- 今後新しい政策を立ち上げる際には、皆さまが多文化共生を担うメンバーだと思うので、また、このような会議があるかもしれません。今後とも、率直なご指導、ご意見賜りたくお願い申し上げます、また、心からの御礼と感謝を申し上げます、講評としたい。本日は誠にありがとうございました。



沼田市長 星野 稔